【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成23年11月17日(2011.11.17)

【公開番号】特開2011-46720(P2011-46720A)
【公開日】平成23年3月10日(2011.3.10)
【年通号数】公開・登録公報2011-010
【出願番号】特願2010-223006(P2010-223006)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｋ　39/395　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　 9/00　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　35/00　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　19/02　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　27/02　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　29/00　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　 9/10　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　27/06　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　17/00　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　15/00　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　27/14　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　31/18　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　19/08　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　 1/04　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　17/02　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　37/06　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　35/02　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　27/10　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　33/00　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　 7/06　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　31/04　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　37/02　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　33/02　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　 7/10　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　43/00　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　45/00　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　51/00　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　49/00　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　49/04　(2006.01)
Ｃ１２Ｎ　 5/10　(2006.01)
Ｃ１２Ｎ　15/02　(2006.01)
Ｃ１２Ｎ　15/09　(2006.01)
Ｃ１２Ｎ　 5/071　(2010.01)
Ｃ１２Ｐ　21/08　(2006.01)
Ｇ０１Ｎ　33/53　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　17/06　(2006.01)
Ｃ０７Ｋ　16/24　(2006.01)
Ａ０１Ｋ　67/027　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｋ　39/395　ＺＮＡＴ
Ａ６１Ｋ　39/395　Ｌ

Ａ６１Ｐ	9/00		
Ａ６１Ｐ	35/00		
Ａ６１Ｐ	19/02		
Ａ６１Ｐ	27/02		
Ａ６１Ｐ	29/00	１０１	
Ａ６１Ｐ	9/10		
Ａ６１Ｐ	9/10	１０１	
Ａ６１Ｐ	27/06		
Ａ６１Ｐ	17/00		
Ａ６１Ｐ	15/00		
Ａ６１Ｐ	27/14		
Ａ６１Ｐ	31/18		
Ａ６１Ｐ	19/08		
Ａ６１Ｐ	1/04		
Ａ６１Ｐ	17/02		
Ａ６１Ｐ	37/06		
Ａ６１Ｐ	35/02		
Ａ６１Ｐ	27/10		
Ａ６１Ｐ	33/00		
Ａ６１Ｐ	7/06		
Ａ６１Ｐ	31/04		
Ａ６１Ｐ	37/02		
Ａ６１Ｐ	33/02		
Ａ６１Ｐ	7/10		
Ａ６１Ｐ	43/00	１２１	
Ａ６１Ｋ	45/00		
Ａ６１Ｋ	49/02		Ａ
Ａ６１Ｋ	49/00		Ｃ
Ａ６１Ｋ	49/04		Ｆ
Ｃ１２Ｎ	5/00	１０２	
Ｃ１２Ｎ	15/00		Ｃ
Ｃ１２Ｎ	15/00		Ａ
Ｃ１２Ｎ	5/00	２０２Ａ	
Ｃ１２Ｐ	21/08		
Ｇ０１Ｎ	33/53		Ｐ
Ａ６１Ｐ	17/06		
Ｃ０７Ｋ	16/24		
Ａ０１Ｋ	67/027		

【手続補正書】
【提出日】平成22年9月30日(2010.9.30)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００７】
血管標的アプローチの別の効果的なバージョンは、腫瘍脈管構造内で発現または吸着されたマーカーに対して凝固因子を標的にすることである（Ｈｕａｎｇら、１９９７；米国特許第５，８７７，２８９、同第６，００４，５５５号、および同第６，０９３，３９９

号。毒素よりむしろ凝血薬を腫瘍脈管構造に送達することは、減少した免疫原性、および毒素の副作用のさらに低い危険性のさらなる利点を有する。米国特許第５，８７７，２８９号に記載されるように、このような腫瘍特異的「凝血薬」における使用に好ましい凝固因子は、短縮形態のヒト凝固誘導タンパク質、組織因子（ＴＦ）、血液凝固の主なイニシエータである。

【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１６７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１６７】
コアグリガンドを用いる腫瘍標的化および処置は、以下の特許および特許出願に記載され、それらの各々は、特にコアグリガンドおよび凝固因子に関する本教示をなおさらに補強するために参考として本明細書中に援用される：米国出願第０７／８４６，３４９号；同第０８／２０５，３３０（米国特許第５，８５５，８６６号）；同第０８／３５０，２１２号（米国特許第５，９６５，１３２号）；同第０８／２７３，５６７号；同第０８／４８２，３６９号（米国特許第６，０９３，３９９号；同第０８／４８５，４８２号；同第０８／４８７，４２７号（米国特許第６，００４，５５５号）；同第０８／４７９，７３３号（米国特許第５，８７７，２８９号）；および同第０８／４７２，６３１；同第０８／４７９，７２７号および同第０８／４８１，９０４号（米国特許第６，０３６，９５５号）。

【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１７９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１７９】
以下の特許および特許出願が、コアグリガンド調製、精製および使用（二重特異性抗体コアグリガンドを含む）に関する本教示をいっそうさらに補う目的のために、本明細書中に参考として各々が援用される：米国出願番号０７／８４６，３４９；０８／２０５，３３０（米国特許第５，８５５，８６６号）；０８／３５０，２１２（米国特許第５，９６５，１３２号）；０８／２７３，５６７；０８／４８２，３６９（米国特許第６，０９３，３９９号；０８／４８５，４８２；０８／４８７，４２７（米国特許第６，００４，５５５号）；０８／４７９，７３３（米国特許第５，８７７，２８９号）；０８／４７２，６３１；および０８／４７９，７２７および０８／４８１，９０４（米国特許第６，０３６，９５５号）。

【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０４２５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０４２５】
以下の特許および特許出願は、抗体の機能的な抗原結合領域（抗ＶＥＧＦ抗体のｓｃＦｖ、Ｆｖ、Ｆａｂ’、ＦａｂおよびＦ（ａｂ’）$_2$フラグメントを含む）の調製および使用に関する本教示をなおさらに補足する目的のために、本明細書中に参考として具体的に援用される：米国特許第５，８５５，８６６号；同第５，９６５，１３２号；同第６，０５１，２３０号；同第６，００４，５５５号；および同第５，８７７，２８９号；ならびに米国特許出願第０８／４８２，３６９号（１９９８年１０月２０日に特許証発行料金が支払われた）。ＷＯ９８／４５３３１もまた、抗体の可変領域、超可変領域、および相補性決定領域（ＣＤＲ）の調製をなおさらに記載および教示することを含む目的のために、

本明細書中に参考として援用される。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０４２９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０４２９】
本発明と共に使用するための適度な結合型改変は、サルベージレセプター結合エピトープを抗体フラグメントに組み込む工程を包含する。これを達成するための技術としては、抗体フラグメントの適切な領域の変異、または抗体フラグメントに付着するペプチドタグとしてのエピトープの組み込みが挙げられる。ＷＯ９６／３２４７８は、このような技術をさらに説明する目的のために、本明細書中に参考として具体的に援用される。サルベージレセプター結合エピトープは、代表的には、抗体フラグメントの類似の位置に移されるＦｃドメインの１つまたは２つのループ（ｌｏｏｐ）由来の３つ以上のアミノ酸の領域である。ＷＯ９８／４５３３１のサルベージレセプター結合エピトープは、本発明と共に使用するために、本明細書中に参考として援用される。
【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０７０５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０７０５】
以下の特許および特許出願は、腫瘍支質を標的化する薬剤の調製および使用に関する本発明の教示をなおさらに補完する目的のために、参考として本明細書中に具体的に援用される：米国特許出願第０８／４８２，３６９号（米国特許第６，０９３，３９９号；同第０８／４８５，４８２号；同第０８／４８７，４２７号（米国特許第６，００４，５５５号）；同第０８／４７９，７３３号（米国特許第５，８７７，２８９号）；同第０８／４７２，６３１号および同第０８／４７９，７２７号および同第０８／４８１，９０４号（米国特許第６，０３６，９５５号）。